

令和3年1月全体集会「年頭のあいさつ」

令和3年1月4日 施設長 宮下正弘

皆さん、あけましておめでとうございます。今年は暦通りの年末年始の6日間、皆さまは如何に過ごされてでしょうか。私は30日に今年最後の看取りとなったH様を見送り、元旦にはお楽しみ会、皆さん工夫して獅子舞やアマビエ、かるたやびっくり箱などで楽しんでもらいました。入所者さんたちも新年を感じてくれたのではないのでしょうか。あと2日の夜、T様が容態悪化して診察したので、都合3日出動し、その他は部屋の片づけや年賀状の整理、そして箱根駅伝など正月スポーツのTV観戦で過ごしました。県南の方は雪が多いようですが、秋田はさほどではなく、今日は青空がのぞき、穏やかな中で仕事始めを迎えたことを喜びたいと思います。

さて、年頭に当たって3つのこととお話ししたいと思います。

まず新しい仲間を迎えました。前任者の退職後1か月空席であった管理栄養士に佐々木さんを迎えることができました。後ほど紹介・辞令交付がありますが、遊心苑やかみの里などの老健施設勤務経験もあり、これから入所者さんの最大の楽しみである食事の提供に取り組んでいただきたいと思います。今年は食事やおやつ面で、新しい取り組みをしていきたいと考えています。

次に今年の4月に介護報酬の改定があります。このコロナ禍の下で、医療・介護現場が非常に大変な状況にあることが皆さんご存じのとおりですし、マスコミもしばしば報道しているところです。当初財務省は更なる高齢化の進行で抑制論がなかったわけではありませんでした。社会保障審議会で議論が始まるとマイナス改定などありえないとして、論点整理が進んでゆきました。そして12月17日に財務大臣と厚生労働大臣の間で0.7%のアップということで決着がつけました。年度前半はコロナ対応で0.75%、後半は0.65%、年平均で0.7%という訳です。どのような内訳になるかは年明けに提示ということでしたが、いずれにしても国民の後押しがあることを自覚して、利用者さんが喜びをもって日々過ごせるようにみんなで力を合わせてゆけば、結果は自ずからついてくるはずですよ。

最後に、当苑には現在100歳の方が3名おられます。私がここにきて昨年初めて100歳の方、100寿者あるいはセンテナリアン(世紀を生きた人という意味)と呼びますが、誕生しました。それも3名ですね。今までは98歳の壁を中々超えられなかったのですが・・・。今年は畑ハナさんと大塚三代治さんが5月に100歳となります。そうすると5人、20人に一人は百寿者ということになりまして、山盛苑は長寿の苑、これは素晴らしいことです。大切にお守りしたいと思います。

ここから外を見ますと、松に雪が重く掛かって枝が下の方に相当しなっております。私は昭和天皇の昭和21年歌会始の御製を思い出します。それはこんな短歌です。

「ふりつもるみ雪にたへて色変へぬ松ぞををしき人もかくあれ」

今国は太平洋戦争以来のコロナという国難にあります。昭和天皇の御製を紹介したのは、コロナには絶対負けたくないという心をもってみんなでこの1年をスタートしたかったからです。どうかよろしく願いいたします。